

令和6年度 冬季一般入学者選抜試験

小論文試験問題

注意事項

1. 開始の合図があるまで、開かないこと。
2. この問題冊子は7枚綴り、問題は片面に印刷されている。
3. この問題冊子は持ち帰ること。
4. 解答用紙は必ず提出すること。
5. この試験の問題は、ただ1つ特定の正解が存在することを前提とするものではない。また、解答者の思想・信条を問うものではない。

解答記入上の注意

1. 解答は、黒、青、ブルーブラックのボールペン（プラスチック製消しゴム等で消せないもの）又は万年筆で記入しなさい。
2. 解答は横書きにして、原則としてマス目に1字記入しなさい。
3. 加筆・訂正・削除は、その記入方法も含めて自由とする。ただし、修正液・消しゴムなどを使用してはならない。
4. 加筆・訂正・削除をした場合は、それらを含めて、完成後の答案が字数の制限内に収まるようにしなさい。
5. 読みやすい答案となるよう心掛けなさい。

以下は、竹内靖雄『法と正義の経済学』（新潮選書、2002年）から抜粋した文章である。これを読んで、〔問1〕、〔問2〕及び〔問3〕に答えなさい（〔問1〕、〔問2〕、〔問3〕の配点割合は、1：2：2）。

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

〔問 1〕

筆者の考えによれば、個人の復讐が国家によって禁止された理由は何か。文中の言葉を使いつつ 300 字以上 400 字以内で解答しなさい。

〔問 2〕

(1)下線部㉒の「二つの正義回復方式」とは何かについて、文中の言葉を使いつつ説明した上、(2)下線部㉓の「動物にはできない、人間だけにできる利害の計算」によると、下線

部㉞の「二つの正義回復方式」のどちらが優れていると考えられるか説明しなさい。この問いの解答は、(1)・(2)を合わせて650字以上800字以内に収めること。

〔問3〕

下線部㉞の主張の根拠を文中の言葉を使いつつ説明した上、下線部㉞と主張する人に対して、法曹を目指すあなたはどのように回答するか。650字以上800字以内で解答しなさい。

【解答作成上の留意点】

- I 本問は、解答者の思想や信条を問おうとするものではない。また、法知識の有無を問おうとするものでもない。
- II 〔問1〕、〔問2〕、〔問3〕は、それぞれ独立のものともみなして採点する。必要な場合には、他の解答欄に記述したことで繰り返して記述しなさい。

【出題趣旨】

法律学の学修では、①法的な問題点を発見する能力と、②発見した問題点を解決するために、法律を使いこなす（法を解釈し適用する）能力を磨いていく。問1は、入学後の①の前提として、「個人の復讐が国家によって禁止された理由」という特定のテーマについて、与えられた課題文の内容を理解し、それを端的にまとめ、表現する能力を測る趣旨の設問である。問2は、問1と同様に、与えられた課題文の内容を理解し、それを端的にまとめ、表現するとともに、「二つの正義回復方式」という課題文中の対照的な考え方を的確に押さえる能力を測る趣旨の設問である。問3は、入学後の②の前提として、立場の異なる相手を対象に、説得力のある文章で自身の考え方を表現する能力を測る趣旨の設問である。法曹を目指す者の視点から、問題点に対して具体的な対処方法を思考し、的確に表現する能力を評価する趣旨の設問でもある。